





○夏実

読書が趣味の、おとなしい少女。
旅行好きの母と出不精の父という
正反対の性格の両親を持ち、
父と二人きりで、家で過ごすことが多い。

ファザコン気味で、
父にもたれて本を読むのが好きなのだが、
父は其中で感じる夏実の香り、体温、肉体の感触、
そして性的な目で見られていることに気付かず
自身に甘える夏実の純真さに
少しづつ理性を蝕まれていった。

そして、母が友人と旅行に出かけたある日の夜。
夏実は、我を忘れた父に無理矢理犯されてしまう。

夏実との関係が崩壊するかと思われたが、
父の心配をよそに、
夏実の態度は以前とは変わらなかった。
むしろ、父が夏実の肉体を求めると、
恥ずかしがりながらも受け入れるようになった。
それからは、母が居ない間を見つけては、
父は、夏実の体を激しく貪った。

今日は母が久方ぶりに旅行に出かけ、
しばらくの間は家に二人きりの日が続く。
父の指が、夏実の肌に触れる。
二人きりの夜が始まる—



チッ
チッ
チッ
チッ



お父さん…

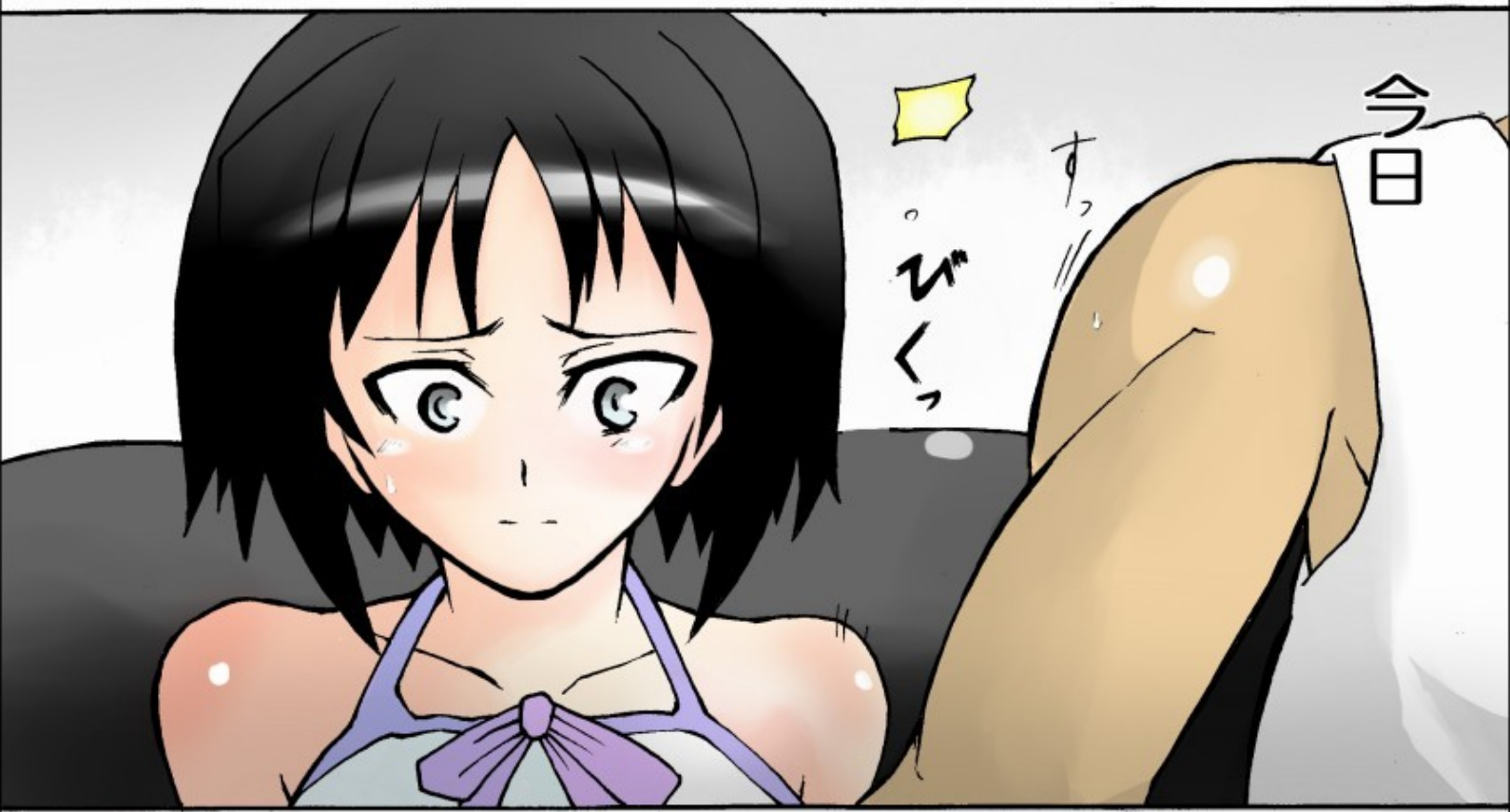


「ギッ」

なんだ夏実
まだ寝てないのか？



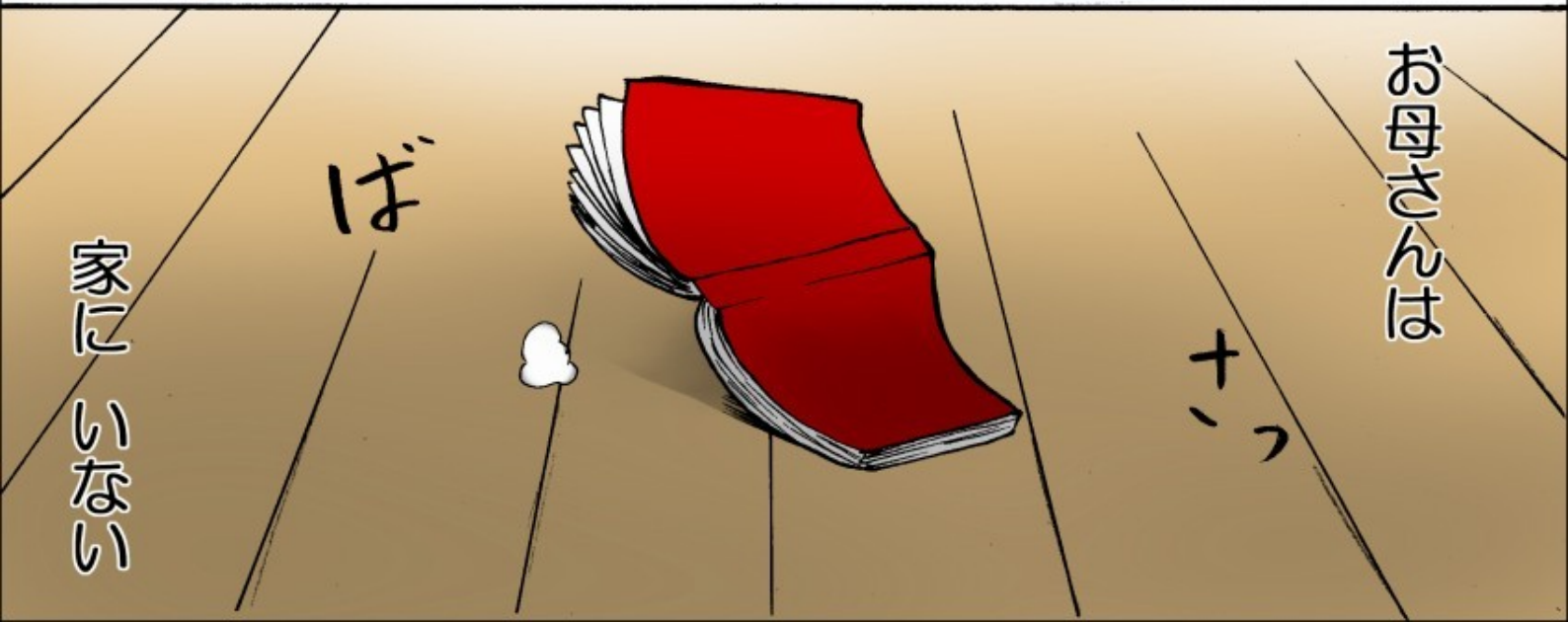
ぐく



今日



ぐく



お母さんは

すっ

ば

家にいない



二人きり...

「あの目」と同じ...

私とお父さん...

お母さん...

内緒の時間ー



はーっ

はーっ

アキ

アキ



はーっ

あの日も今日と同じ
お父さんと二人きりだった

はーっ

私の初めてを
お父さんに奪われた日…



初めに感じたのは、
ぐちゅぐちゅと、頭の中にぼんやり響く音
頭がはつきりしてくると音もだんだん大きくなって

私の乳首がしゃぶられて お父さんのにおいを感じて
怖くて 恥ずかしくて

私はずっと目をつむってた...



はーっ

誰かがち○ちんを膣に入れることを
「セックス」って言ったことを ぼんやりと思い出す
わたし これからお父さんに セックスされるんだ…

責めが止まって 少しでも目を開けると

見た事ないくらい大きくなった

お父さんのち○ちんが

待ちきれないようにビクビクしてた

はーっ

ぐん

ぐん

うあっ…あ

あ、あっ、あっ！

みち
みち
みち

みち

みち

みち



そこから先はあまり憶えていない
お父さんのが、私の中に無理矢理入ってきて…
痛くて、気持ち悪くて、何がなんだかわからなくて…

それでもお父さんは激しくて、奥の方をガンガン突いてきて
痛いのに、怖いのに、だんだんソクソクしてきて、
どうしようもないくらいに声が出て
頭が真っ白になって…
それが 何度も 何度も続いた…

それから 何度も私の中に射精された
お父さんはしきりに「ごめんな、ごめんな」って
謝って それでも私を犯し続けた

犯してる間 お父さんは
私の名前を何度も呼んでくれた
それが少しだけ 嬉しかった…



その日から



その日からお父さんは
お母さんが出かけるたび
わたしをいっぱい求めてくる



こんなことしちゃダメだって
わかってるのに
お父さんに求められて
キスされると頭がボツとして
ぶっでもよくなる...

お父さんはいつも
わたしの胸に赤ちゃんみたいにしゅぶりつく

ふーっ

ちゅーっ
ちゅーっ
ちゅーっ

きゅっ

服の上から乳首を舐めて

染みたよだれの生暖かい感触と

布のこすれが乳首を刺激する

そのたびに—思わず息が漏れて
恥ずかしくなる…

胸を揉まれて 乳首をコリコリ弄られて
思いきりつねって引っ張られて

うあっ…

ぐわ

あっ…!

コリッ

コリ

あんっ

すごく痛いのに、わたしの口から漏れる声は
今まで聞いたことも無いほどHで
アソコがきゅんとして
グシユグシユに濡れて頭が真っ白になる…

あ…

ビョ

ギョウラ

ギョウラ

あっ!

ビョッ

ああ…っ!

お父さんのおち○ちんは
すごく太くて大きくて、

見るたびいつもびっしょりする

ぽっ

ろっ
んっ

んっ

ち○ちんって、みんなこんなに大きいのかな…
クラスの男の子のち○ちんも、こんなに大きいのかな…

お父さんがそっとち○ちんを口元近づけてくる
私がおすおすしていると

お父さんがそっと私の頬をなでてくれる…

前に教えてもらったように
ち○ちんの先っぽを
アイスみたいにペロペロ舐める

「フェラチオ」はまだ慣れないけど
それでもお父さんは
気持ちいいよって言うてくれる



口にち○ちんを含んで 先の方を前後にしゃぶる
舐めるたびに ち○ちんが時々ビクッとして
私の口でよろこんでるんだって思うと嬉しくなる…



口をすぼめて 激しくフェラチオをしてみると
お父さんに声がいつもよりも荒くなってくる

ち○ちんがビクビクいつてる...
出そうなんだ...お父さん
精液...出そうなんだ...

じゅぽっ

んっ

じゅぽっ

じゅぽっ

じゅぽっ

んっ



わたしの顔に…いっぱい射精される…
精液が…わたしの顔にからみつく…

口の中も…精液でいっぱい…
お父さんのにおいで…いっぱいだ…



お父さんの…太い 指が…

んっ

ぐ
ぽっ

ぐ
ぽっ

うんっ…!

わたしのアソコを

ずばずば 出入りする…

いやらしい音が響いて…いつもより…大きくて…
お父さん…「これはおしおきなんだ」って…

は—っ

ちっ

く

は—っ

お父さんのち○ちんが近づいてくる…

居間で…ご飯食べて…テレビ観て…いつも話してる場所で…

ち○ちん 入れられちゃうんだ…セックス するんだ…

ゆっくり ゆっくり

わたしの中を押し開くみたいにおちのちんが入ってくる...

ぐ

ぶうっ...

ぶ

うんっ...

ぶる

ふ

ぶ

ぶ

んっ...!

みち

みち

ぐりゅっ
りゅっ

みち

ぶ

入ってる間も...ちのちん中でグリグリして...
わたしの膣狭くて...入れづらそうだけど...
お父さん...すく...気持ちよそうな...声を出す...



あっ

ひあっ

あっ

あんっ

あんっ

あっ

あっ

お父さんが…いつもより激しく動く

おち○ちんがわたしの膣をゴリゴリ責めて…

その度に わたしは声を上げてる

あん

あっ

あっ！

うあっ

あんっ

あっ

あっ

はっ

パン

はっ

今日は…我慢しなくていいんだ

お母さん…いないから…

気持ちよくても…声…

我慢しないでいいんだ…

ああ…っ！

ド

フ

ゴッ

わたしのお尻をがっしり掴んで
お父さんがわたしの奥に射精する

どく

あはっ

びくっ

おと、あ

どく

どく

びくっ

びくっ

びくっ

どくぶるる

いけないのに…
中に出しちゃいけないのに…

あー…

奥いっぱい…

膣から精液があふれてる…

精液のにおい…お父さんのにおい…

お父さん…

あ

はっ

はっ

はっ

ん…あ、♡

ち○ちん…まだ大きい…

お父さんの…ち○ちん…

お父さん…

プシュッ



信じられないくらい 下品な声が 自分の口からでてくる……

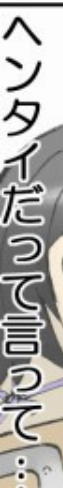


でも我慢できない……もっと奥を突いて欲しい……



落合くん
…

私にいつもHな本見せて



私のこと……

わたし…

あん

あ

ぱ
ぱ
ぱ

ぐちゃ

ぐちゃ

あん

本当にヘンタイだ…

お父さんに組み伏せられて…

汗と精液でグシャグシャになって…

こんないけないことして Hな声あげてる…

でも 気持ちいいんだよ…

落合君…

セックスって…すごく 気持ちいいんだよ…





おく… 出てる…
精液… いっぱい…

おとうさん… 精液…



おち○ちん抜いても…まだ…出てる…
おなか…
あったかいの…いっぱい…

はー…

はー…

おと…

＋…ちゃん

あ、

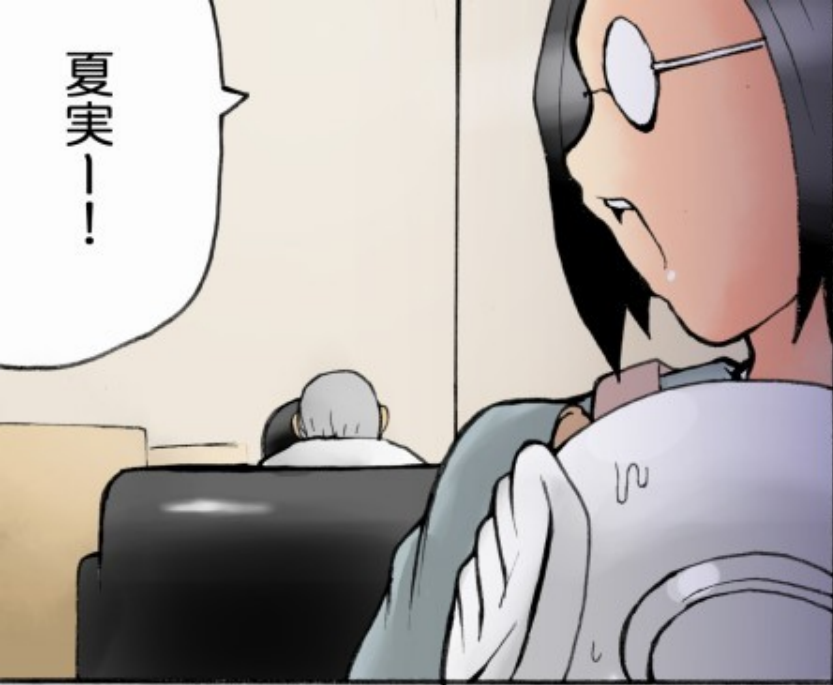
はー…

3…3…
ゴホ…

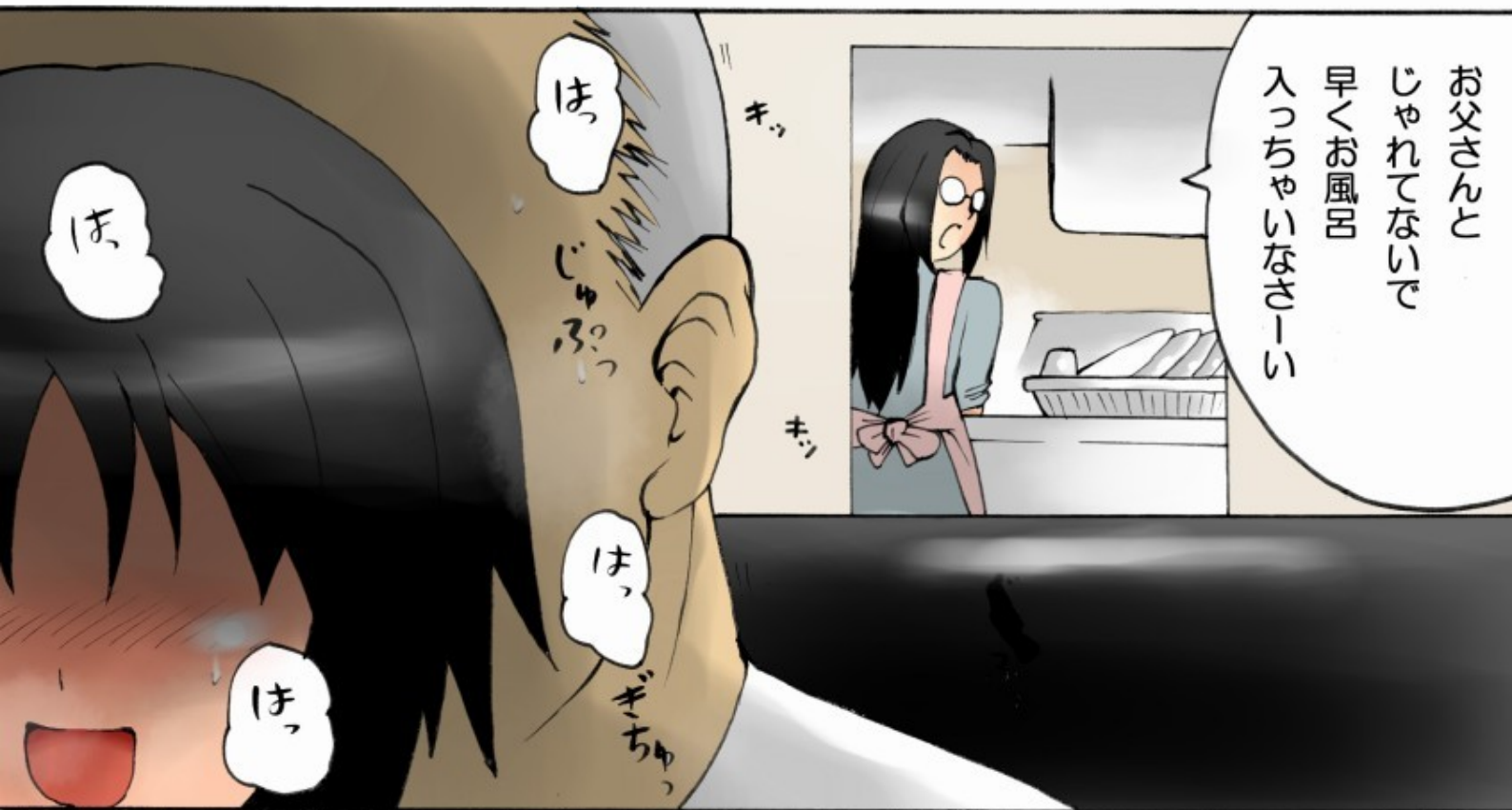
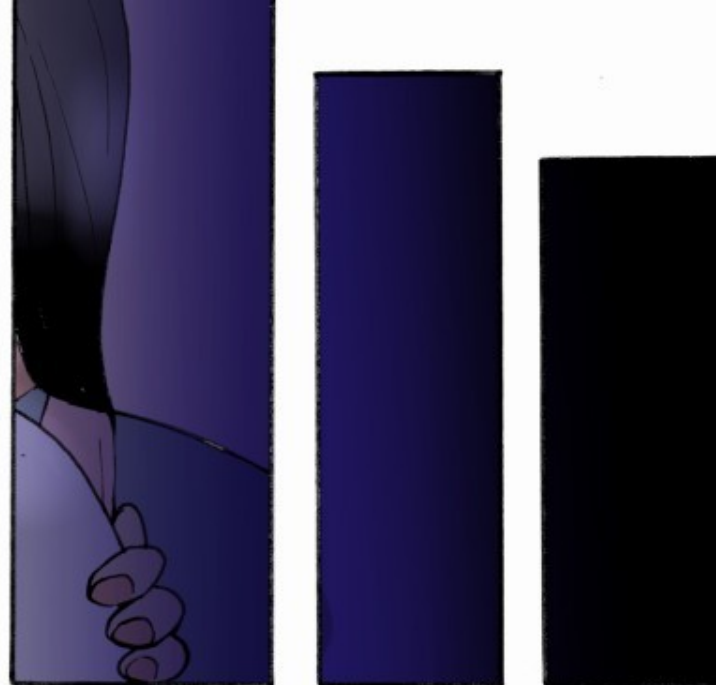
妊娠…しちゃう…

私…お父さんの精液で…

…妊娠しちゃうよ…



夏実ー!!



お父さんと
じゃれてないで
早くお風呂
入っちゃいなさい

ド

うんっ…っ

プ

気持ちいい…

気持ちいいの…

あ

ぞく

ぶるる

あ♡

お父さん…

わたしの おとうさん…!!

あー…

びゅっ
びゅっ
びゅっ
びゅっ



お父さん…

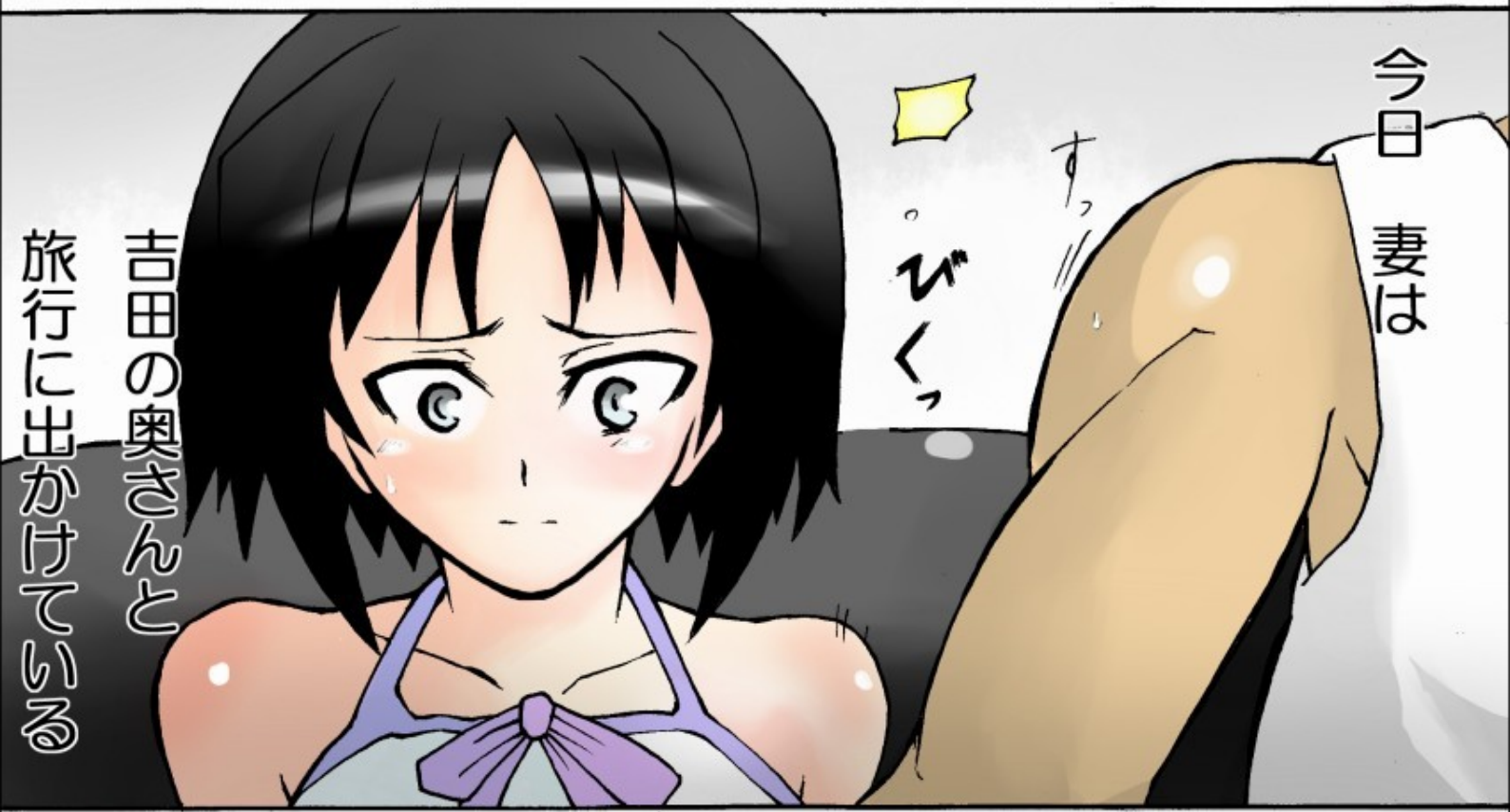


「ギッ」

なんだ夏実
まだ寝てないのか？



ぐくっ

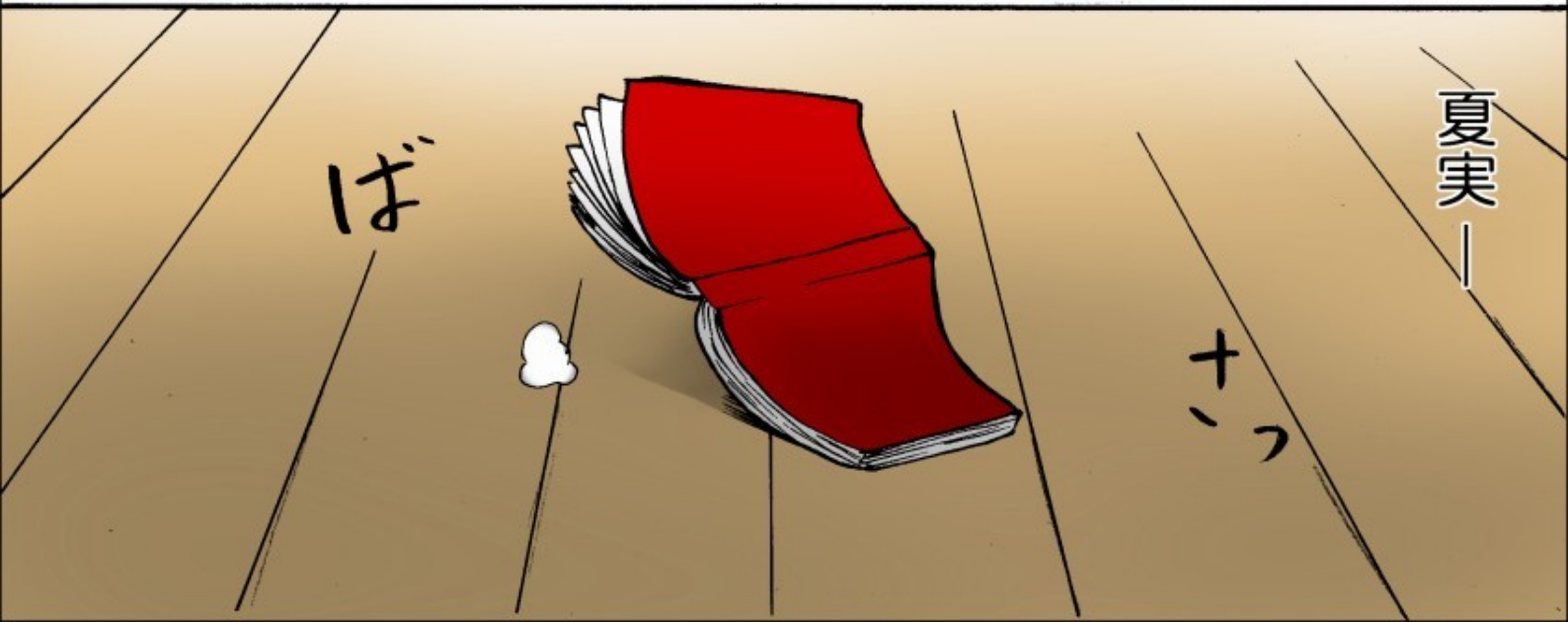


今日 妻は

すっ
びくっ

吉田の奥さんと

旅行に出かけている



夏実—

ば

十ッ

おまのこいじられて…
そんなHな声出して…

「あの日」からは
考えられないくらいHになって…

夏実…

夏実…!!



はーっ

はーっ

アキ

アキ



はーっ

はーっ

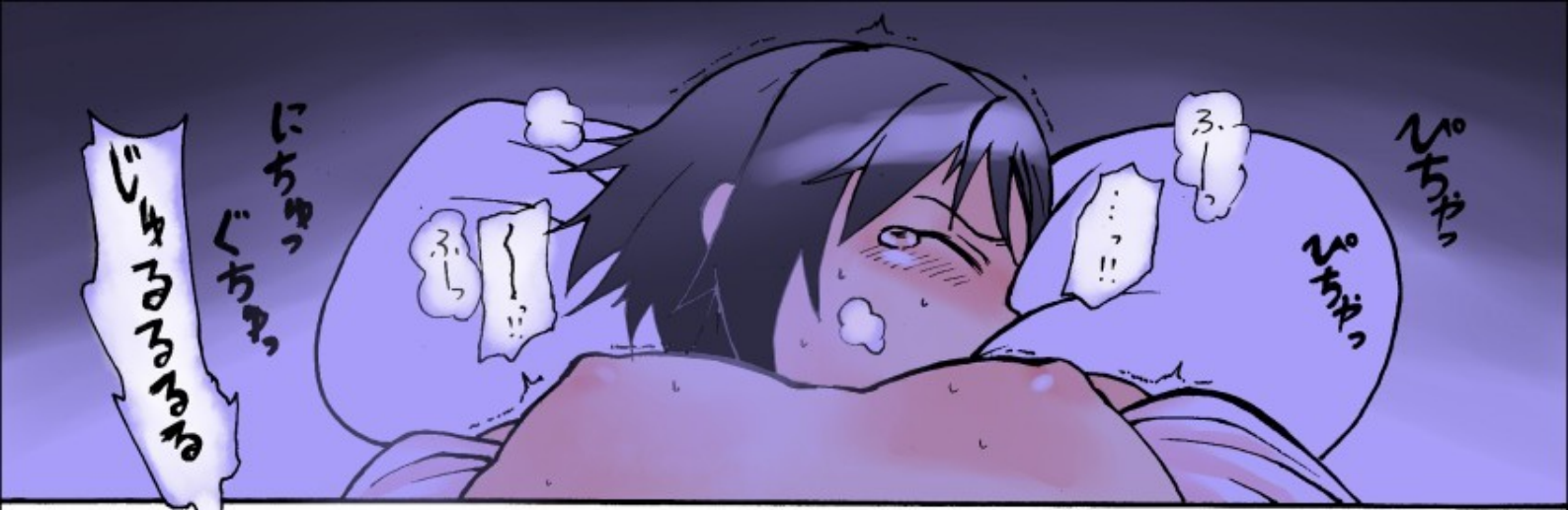
妻が旅行に出かけた「あの日」の夜
私は 娘に手を出した

夏実は 気持よさそうに寝息を立てている
一つ一つパジャマのボタンを外していく
まだブラジャーも知らない
ふくらみかけの 夏実の胸ー



夢中になって吸い付いたく、
口の中で吸って伸ばして たっぷりなぶる

夏実の吐息が少し弾んでいる
その声色が 頭の中に 麻薬のように染み渡る



ひちやっ

ひちやっ

ふし

ふし!!

ふし!!

じゅるるるる

にちやっ

ぐちやっ



あっ

んあっ...

はー

ちやぽっ

いゃー

ぶちやっ

ぶちやっ

舌で丹念に夏実を味わう
ミルクのように甘い臭い
汗の臭い アンモニアの臭い...

夏実の声に
だんだんビブラートが
かかってくる
夏実が感じている...

いやっ...

あんっ

はー

股間へと目を移すと
夏実の性器はじつとりと濡れていた
それが私の最後の理性を粉碎した



はー、

はー、

夏実の目は覚めていた
むき出しの男性器を
夏実が怯えた目で凝視する
頑なに両足を無理矢理こじあける
もう 我慢できない…

はー、

夏実：怖がらなくていいんだ…
これからするのは気持ちいいことなんだ
痛いのは初めだけだから…
大丈夫だから…

ぐん

ぐん

うあっ…あ

みち

みち

みち

みち

みち

あ、あっ、あっ！



無理矢理挿入し、激しく腰を打ち付ける
夏実は痛みあまりに泣き叫んだが、
夏実の肉の締め付けのあまりの気持ちよさに、
自分ではどうしようもないくらい
腰が動いてしまう。

だんだん夏実の声が艶がかってくる
普段は大人しい夏実が
実の父に犯されて、こんなに激しいよがり声を
上げている…

もっと…もっと感じている夏実を見たい…
夏実…夏実…!!

—何度も 何度も 夏実の子宮に射精した
男性器を抜いた時 夏実の膣から
精液があふれ出した

パジャマをはだけ 息をつく夏実の姿…
その姿に興奮が止まらず
一晩中 夏実をレイプした



夏実の態度は変わらなかった



いつも通りの
おとなしい夏実
しかし 私が求めると
夏実は恥ずかしそうに
私の愛撫を受け入れる



この子も 求めているのだろうか...
その問いに答えるように
夏実はの学生とは思えないほど
激しく私の唇を貪る

服の上から夏実の乳首を責め立ててやる
ワンピースが唾液で肌に張り付き、
服の上から乳首が立っているのがよくわかる

ふーっ

ぢゅっうっうっう

きゅっ

音を立ててしゃぶってやると
恥ずかしそうに身体を捻り
可愛らしい声を上げる



ほんの少し弄くっただけで
すぐに夏実の乳首は堅くなり
吐息にも艶が混じってくる

うあっ…

あんっ

あっ…!

思いつき乳首をつねり上げると
痛みと色気が混じった悲鳴を上げる

夏実の顔は涙にまみれつつも

表情は年頃の少女とは思えないほど恍惚としている…

あ…

あっ!

ああ…っ!

ギョウラッ

ギョウラッ

ビョ

ビョッ

肉棒を見せてやると

夏実は毎度目を丸くして驚く

ぽっ

るんっ

ぐっ

乳首を弄られる時はあんなに色気を発するのに
男性器を目の前になるとウブな少女の顔になる
そのギャップがよりいっそう勃起させる

肉棒を 夏実の息がかかるくらい近づけてやると

恥ずかしそうに俯いてしまう

頬を撫でてやると 夏実はくすぐったそうに
少しだけ和らいだ表情を見せる

夏実のフェラチオは まだ拙い
今はまだ舐める、しゃぶるを
単純に行っただけだ



夏実の小さな口に、私の肉棒がしごかれる
柔らかい唇の感触…
生暖かい舌の感触が亀頭をぐにぐにと刺激する…



しかし 熱心に肉棒を愛撫する姿が
たまらなく興奮させる

夏実のフェラチオが

いつになく激しくなってくる

じゅぽっ

んっ

じゅぽっ

んっ

んっ

じゅぽっ

夏実が 私の肉棒に夢中でむしゃぶりつく光景に
頭がどうにかかなりそうなほどの快感が脳髓に走る…



んっ!!

ズッ

口も 顔も まんべんなく私の精液で汚してやる

夏実の表情は

まるで精液の臭いにつかされたみたいと弛緩しちゃっている

おとなしいこの娘が…精液をかけられて…
こんなにもいやらしい表情を浮かべている…



こんな…

んっ

ぐ
ぽっ

ぐ
ぽっ

うんっ…!!

こんなに濡らして…

お父さんにおま〇こ弄られて 居間でHな声を上げて…
いけない娘だ…夏実…
お父さんのチンポで おしおきしてやらなくちゃな…

は—っ

は—っ

おま〇こ…夏実の…おま〇こ…



夏実のおま○こを味わうように ゆっくりと挿入する

い
う
つ
…

...

۱۱۱

ん
っ
…
!

みち

11

みち

れち

ほんの少し膣をえぐると、ヒクヒクと敏感に反応する。夏実の肉が私のチンポに温かく、ねっとり絡みつく……

あつ

あつ

あ
ん
つ

あ
ん
つ

あつ

あつ

ひ
あ
つ

腰の動きをどんどん激しくしていく

奥の方をコンコンとノックしてやると

夏実の声がいつも以上に大きく上がる

あん

あっ

あっ！

うあっ

あんっ

あっ

あっ

はっ

夏実が潤んだ目でこちらを見つめる
ま〇こが肉棒をより強く締め付ける
居間中に 夏実の声が響き渡る…

パン

はっ

ああ…っ！

ド

フ

ゴッ

我慢できず 夏実の中に射精する
尻をがっちりと掴み 腰を密着させ
子宮の奥まで精子が届くように

どく

あはっ

びくっ

おと、あ

肉棒が射精で震えるたびに
夏実の身体もビクビクと痙攣する

あー…

夏実の肉体が

中出しの感触に打ち震えている…

どく

どく

びくっ

びくっ

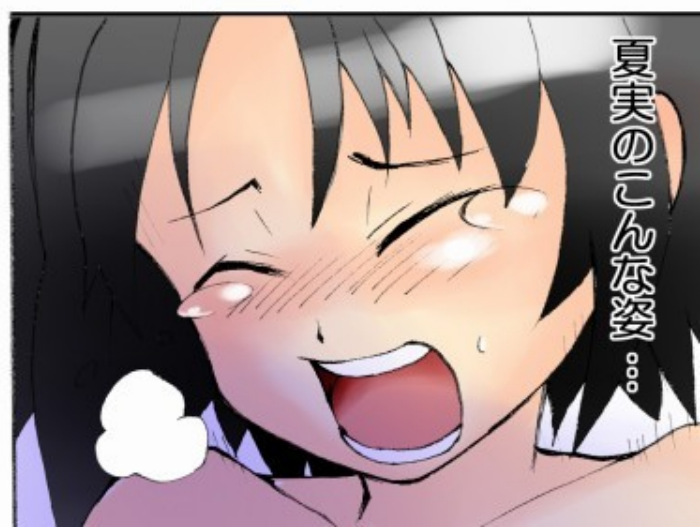
びくっ

どく

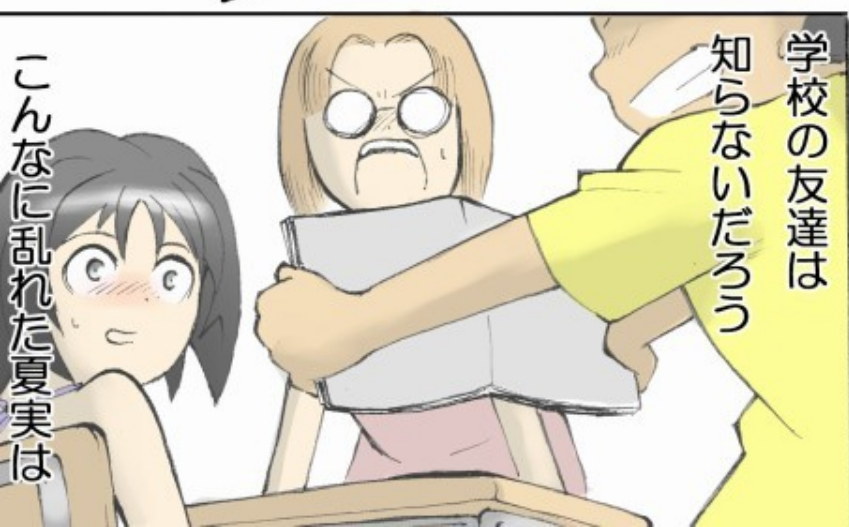
騎乗位で、夏実の奥をガンガン突いてやる
子宮口をつくたびに夏実は濁った嬌声を上げる



おとなしい夏実が…読書が好きな夏実が…
私の肉棒に犯されて…こんなに下品な声を上げている…



夏実のこんな姿…



学校の友達は
知らないだろう

こんなに乱れた夏実は

こんな…幼い膣で

あん

あ

ぱん

ぐちゃ

ぐちゃ

あん

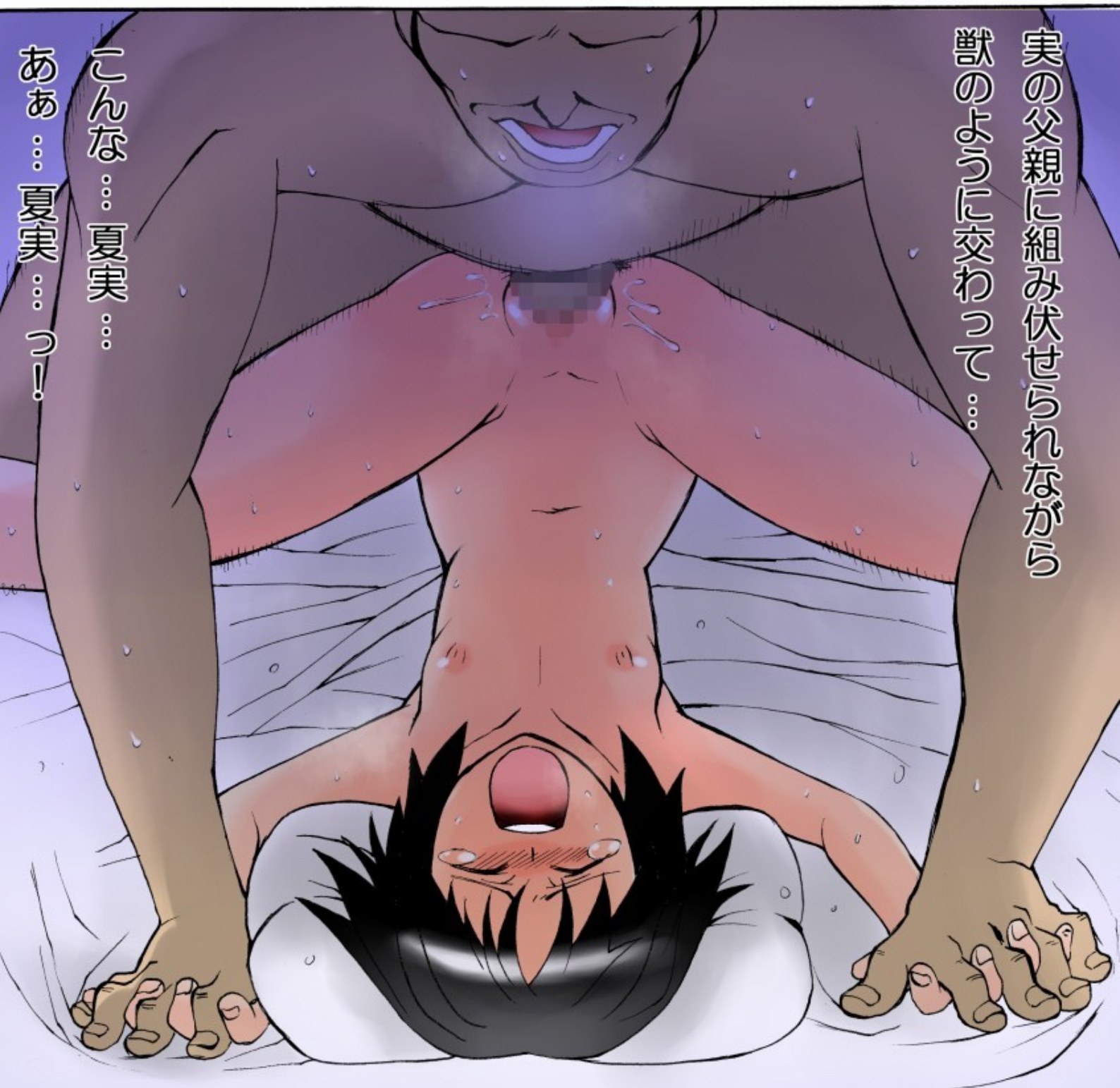
肉棒を…ガツチリ

くわえこんで…

実の父親に組み伏せられながら
獣のように交わって…

こんな…夏実…

ああ…夏実…っ！





夏実：
……

お父さんっ

お父さんっ

お父さんっ

夏実：
……

夏実：
……！

お父さんっ

お父さんっ
♡

夏実：
……っ！



夏実は焦点の定まらない目で
息も絶え絶えに私を求める

は
し
っ

よ

は

は
ー

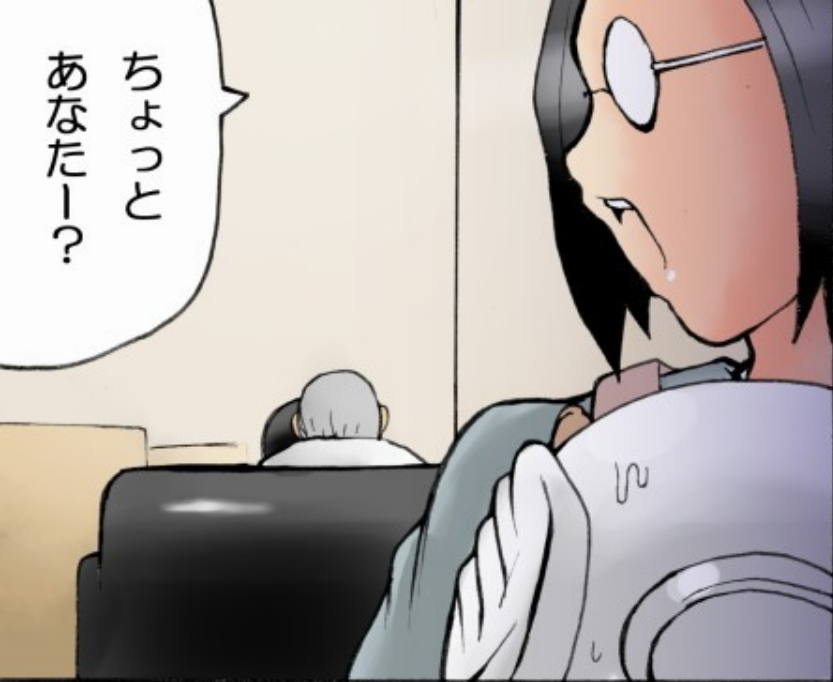
おと

ト...

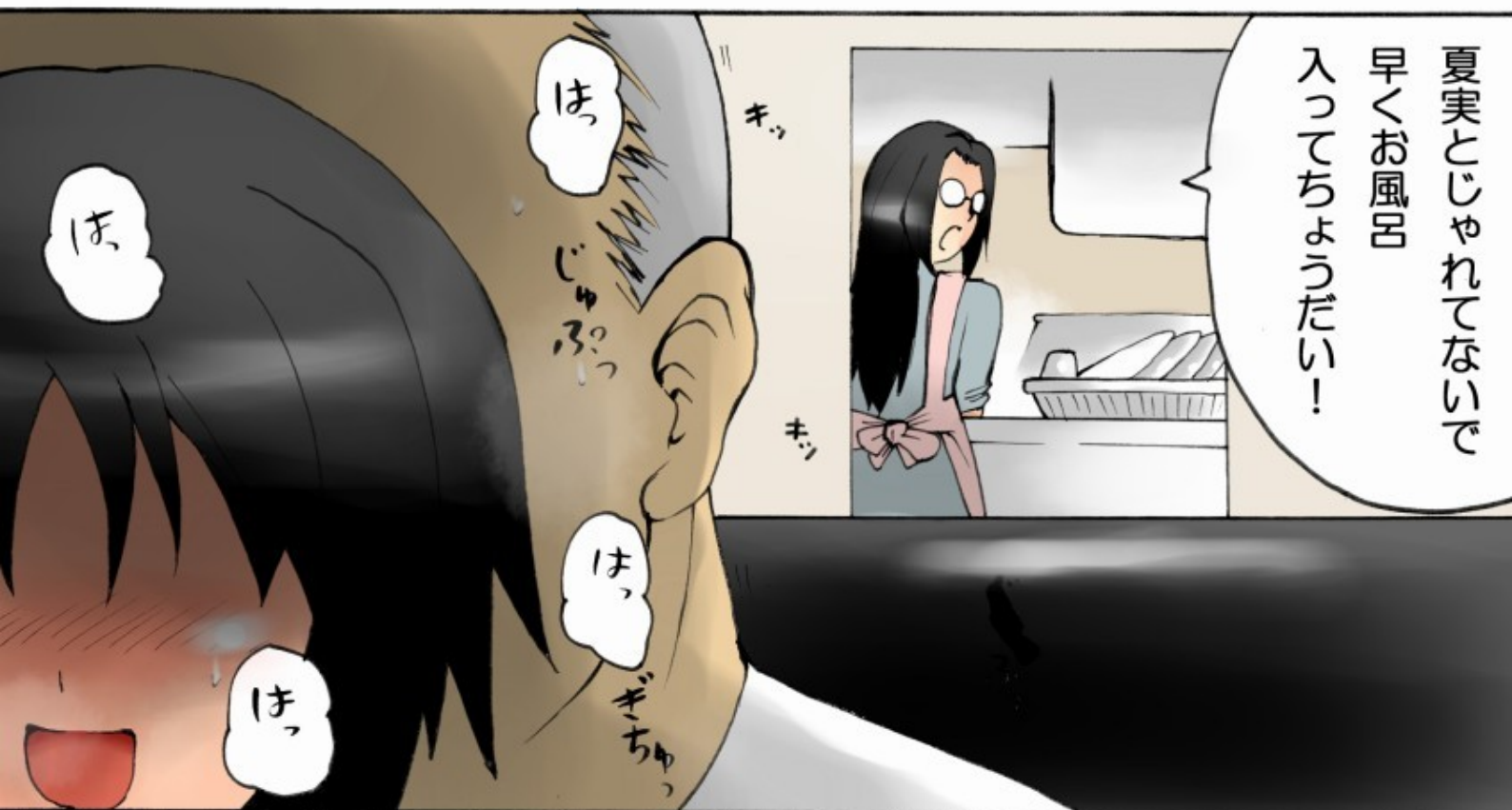
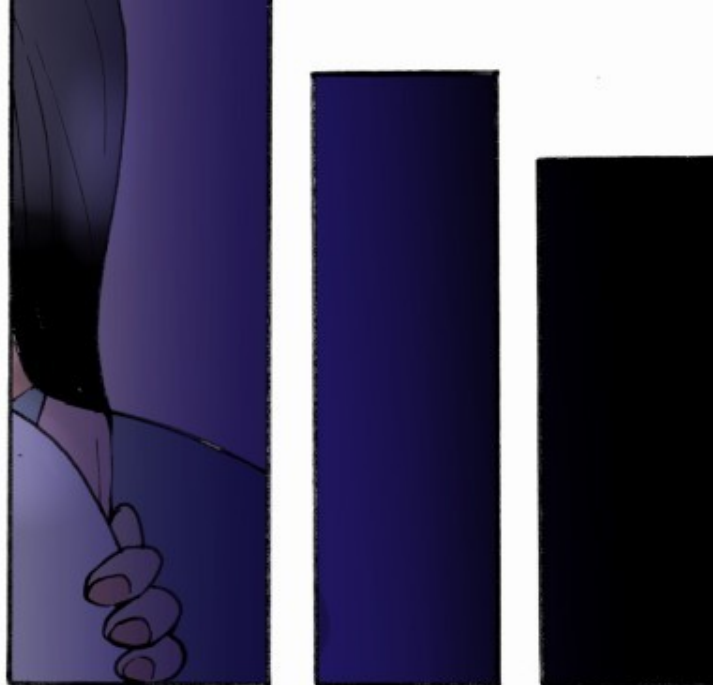
3.3.3.9

下

部屋中に濃厚な夏実の香りが充満している



ちよっと
あなたー？



夏実とじゃれてないで
早くお風呂
入ってちようだい！

ド

ああつ…！

ズ

最近は 夏実の方から求めることが多くなってきた
特に妻がいる時に 夏実は激しく求めてくる
まるでスリルを楽しむように…

あ

ぞく

ぶるる

あ♡

だが…拒めない…
夏実………

びゅっ
びゅっ
びゅっ
びゅっ

あー…

夏実…！



チッ
チッ
チッ
チッ

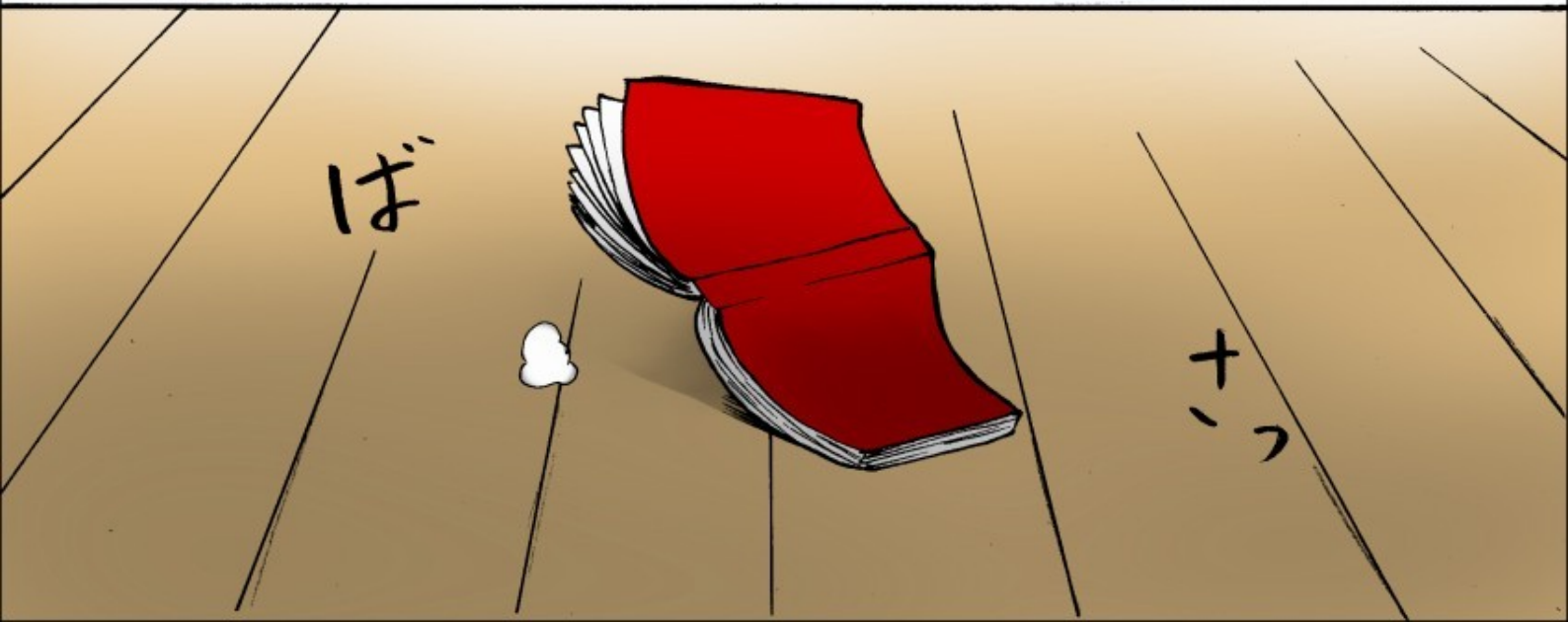
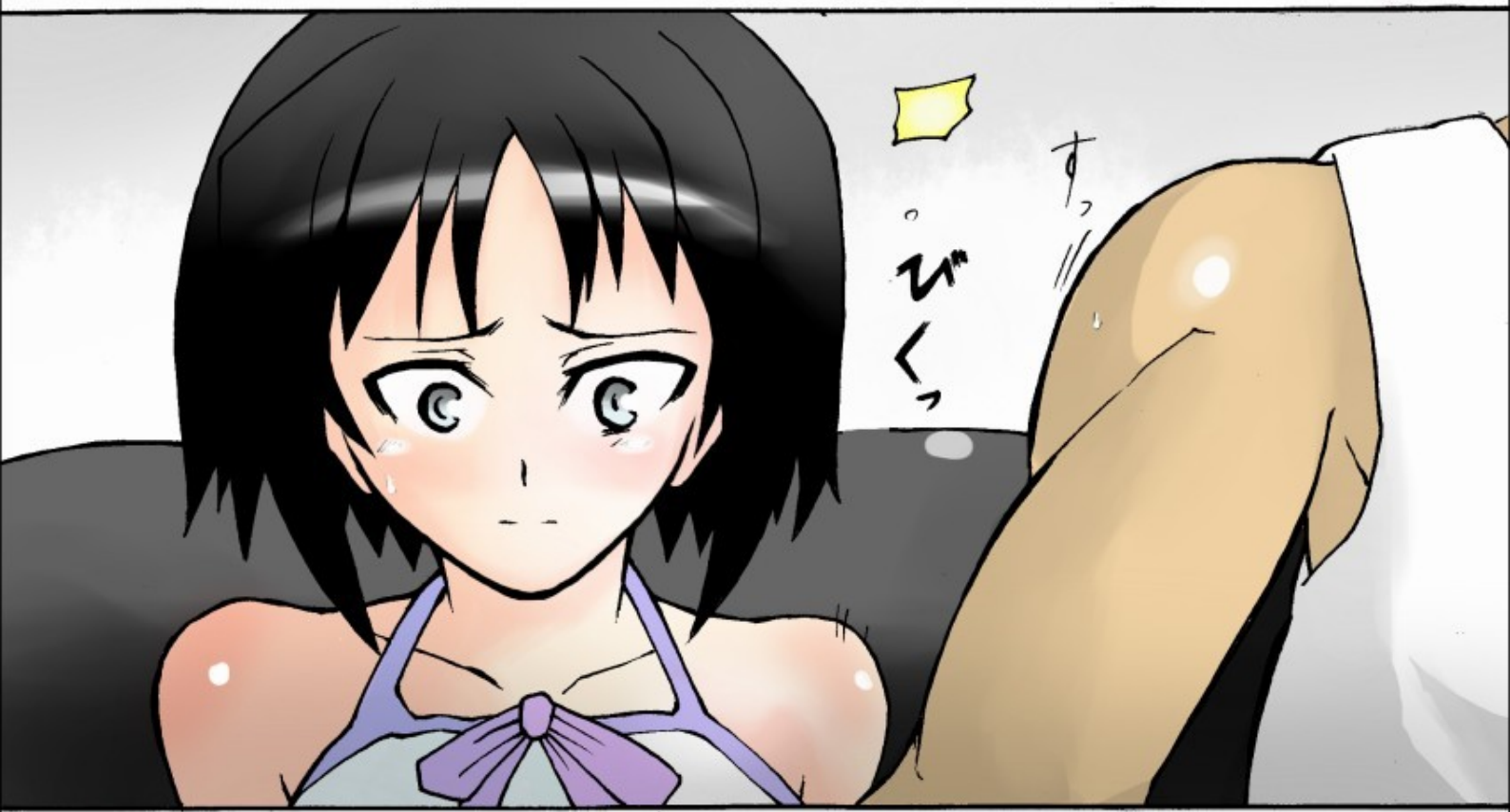


お父さん…



「ギッ」

なんだ夏実
まだ寝てないのか？





あ...

ちゅっ

ふ...
ちゅっ

ん

くちゅっ

ん...

ふ...

くちゅっ

くちゅっ

ふん...

ふ...

ふちゅっ

くちゅっ

くちゅっ

うん...

にゅちゅ

しゅっ

くちゅっ

くちゅっ

あ

ん...
あ...

あ...!!

ぐちゅっ

ぐちゅっ

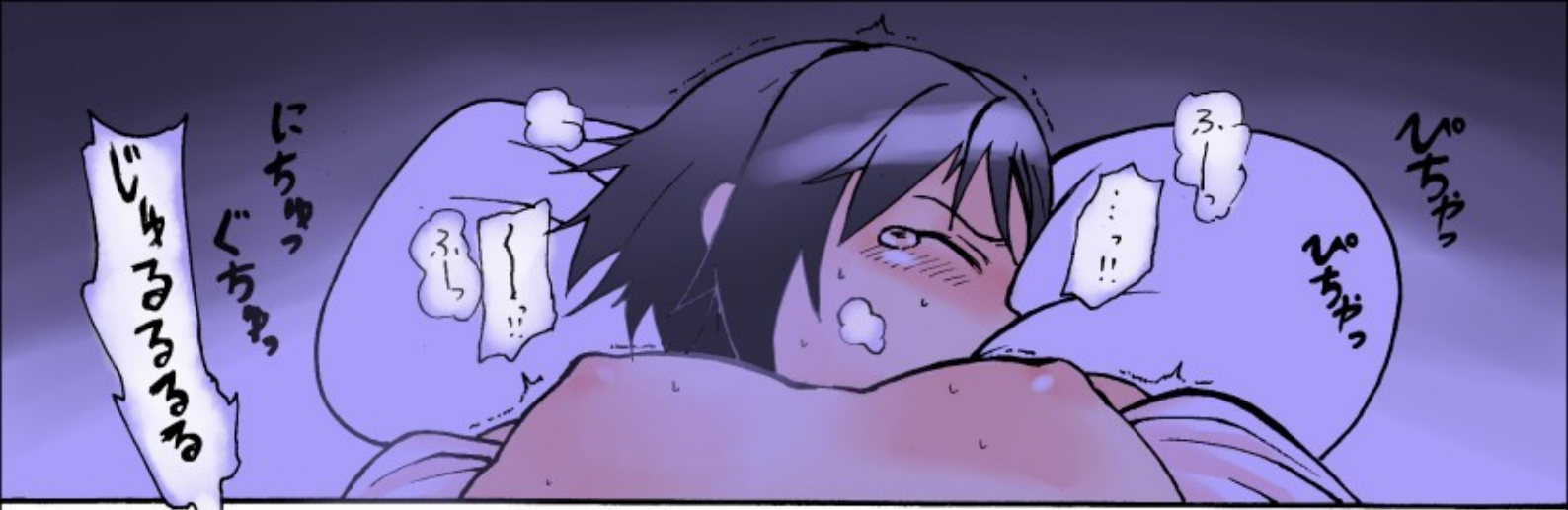


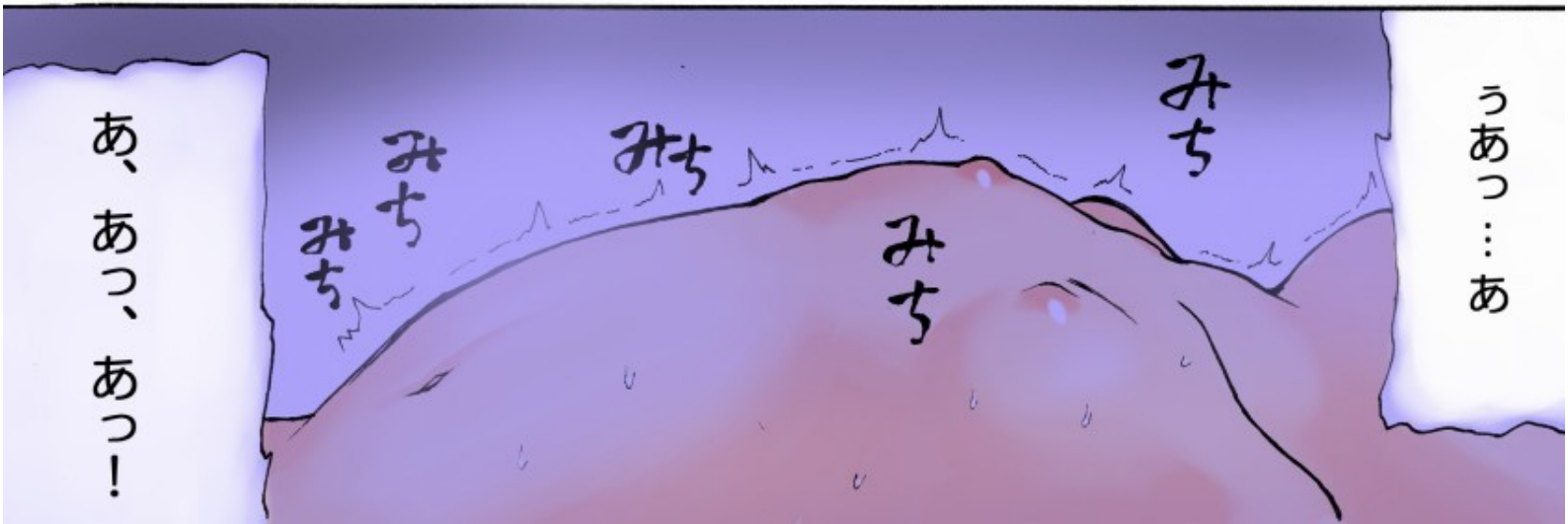
アキ

アキ

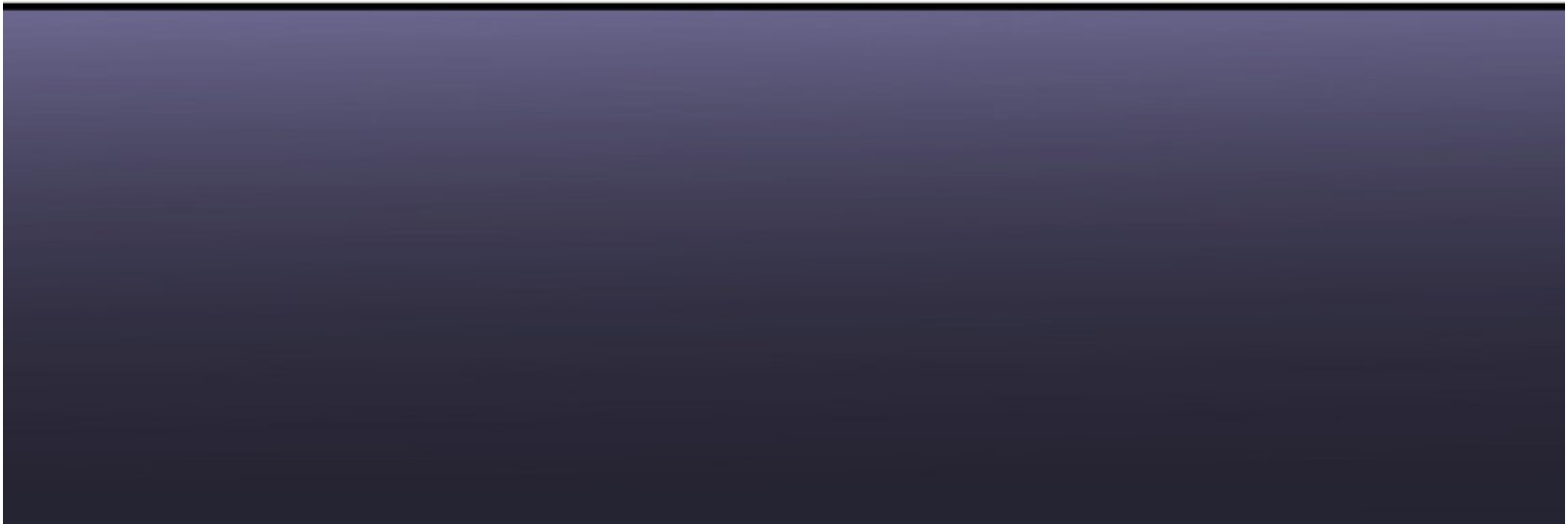


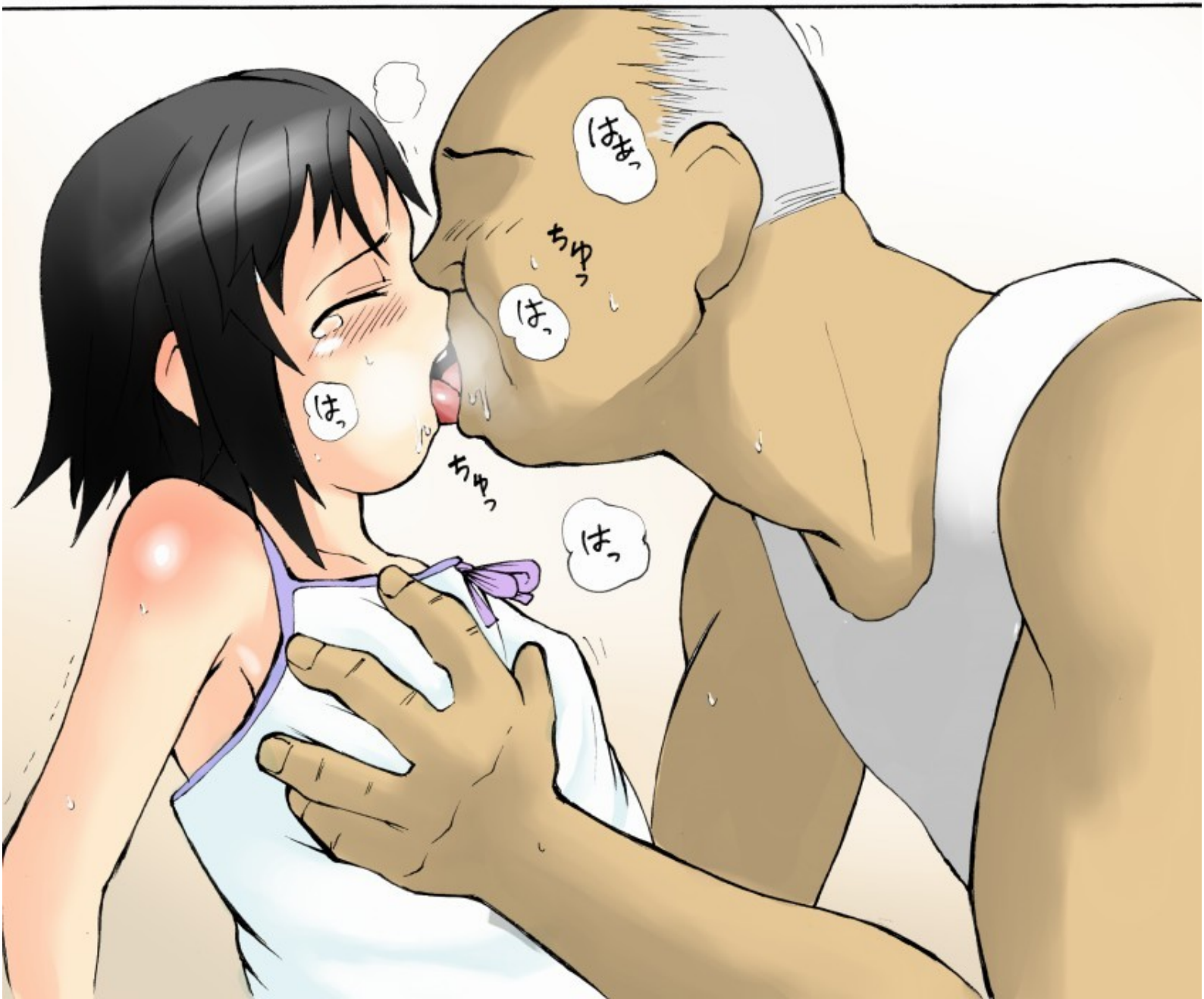






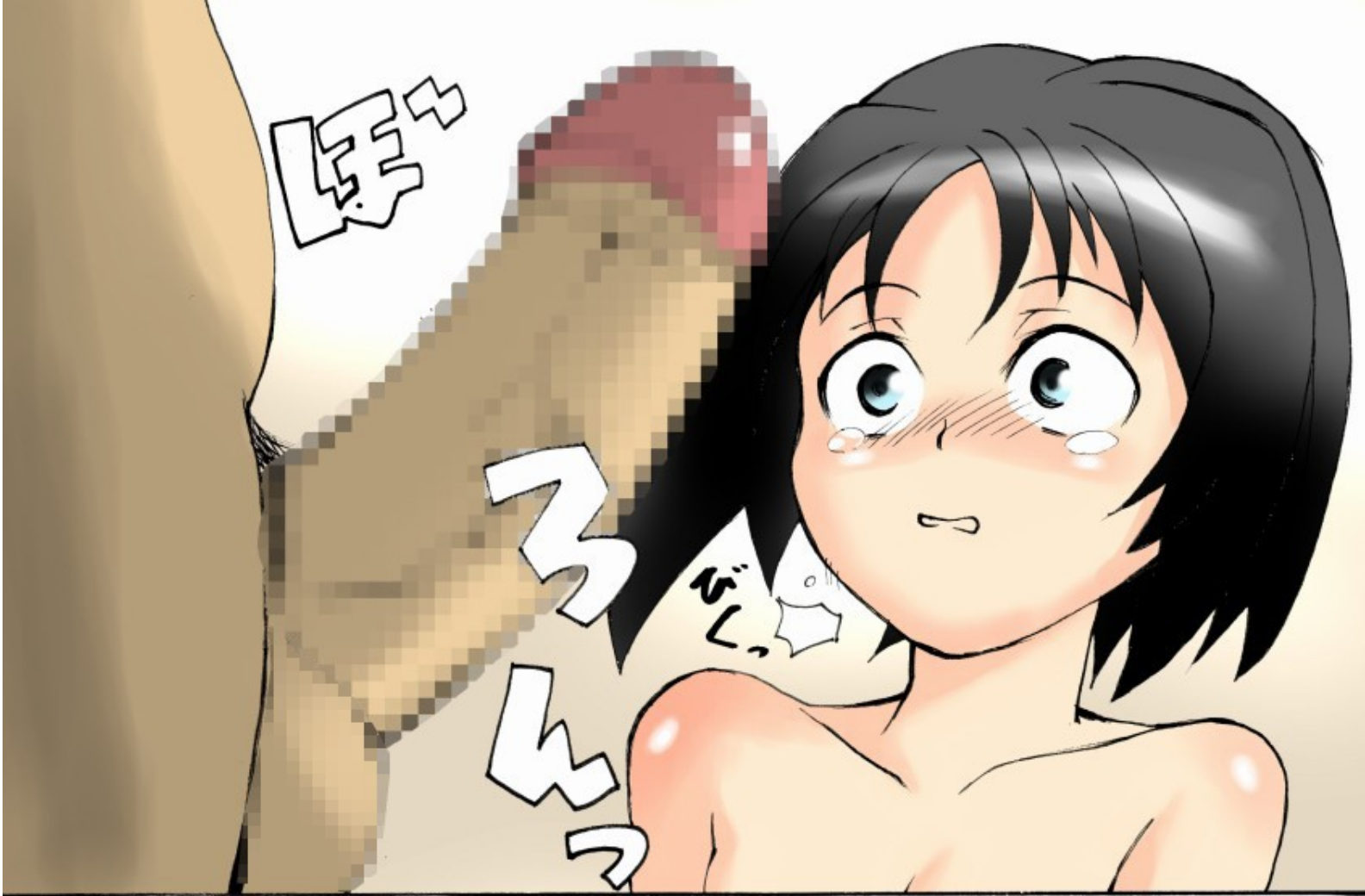
























ああ…っ！

ド

フ

ゴッ

ど

あはっ

びゅっ

おと、あ

あー

ど

ど

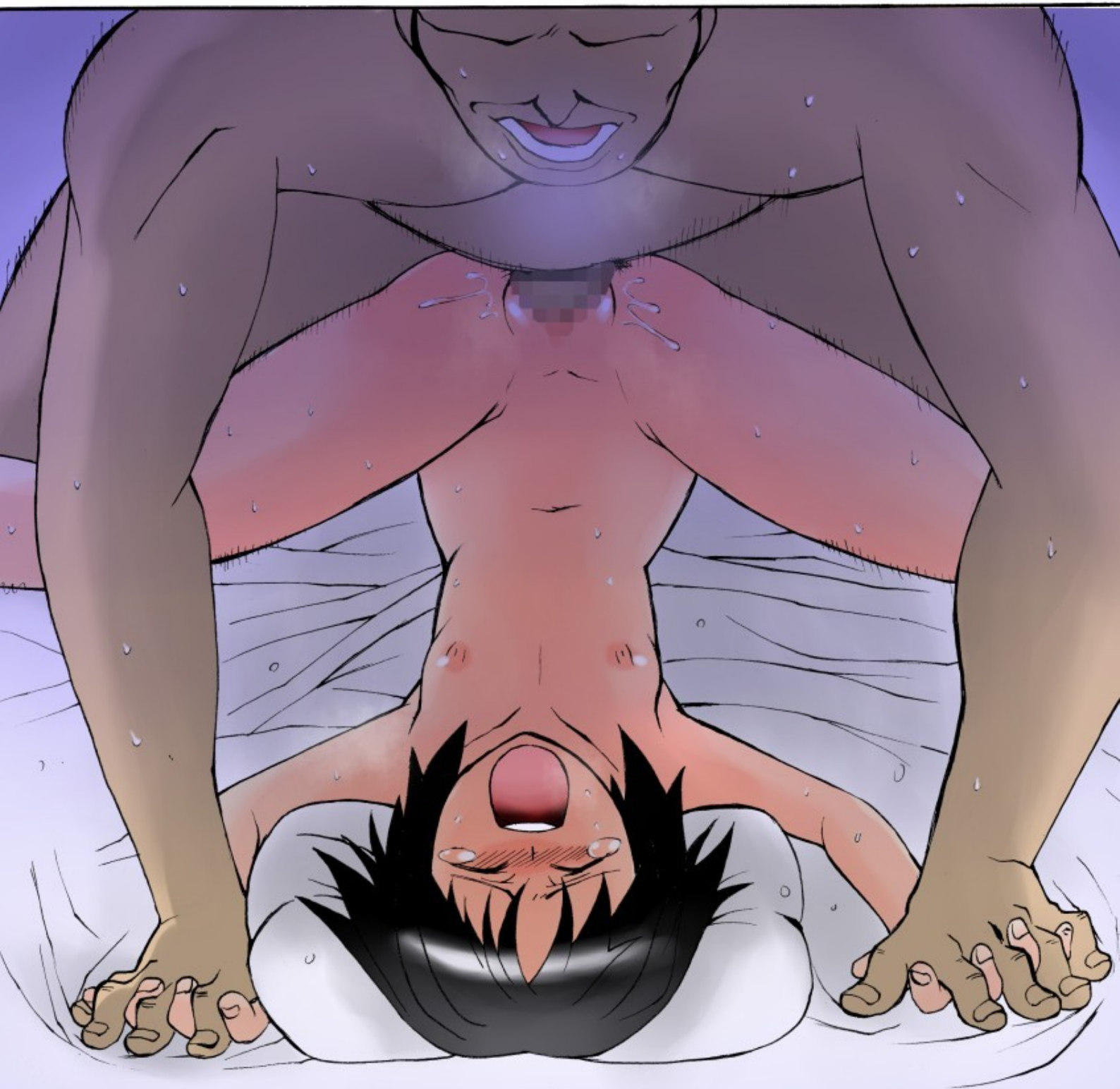
びゅっ

びゅっ

びゅー

ど

ぶるる





お父さん

お父さん

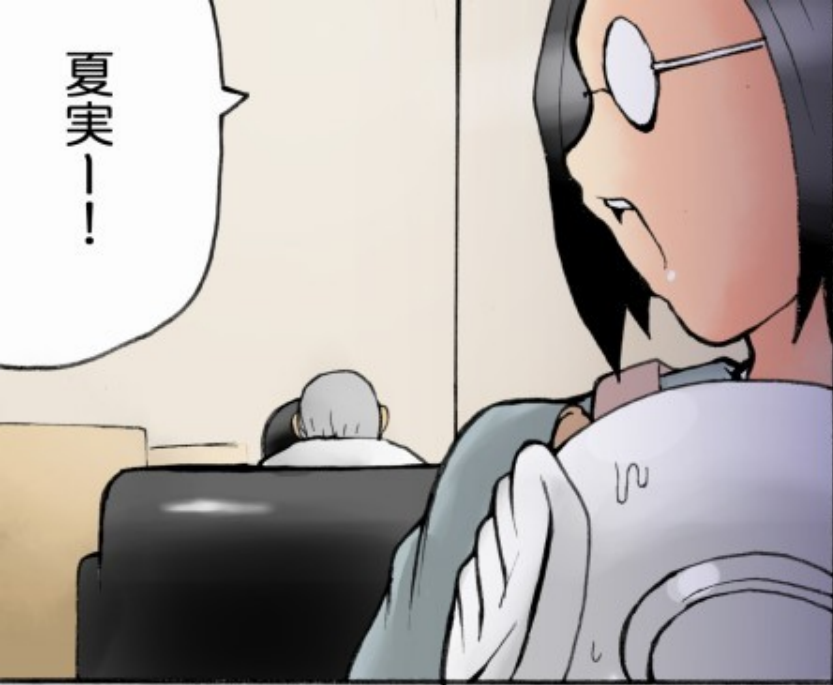
お父さん

お父さん

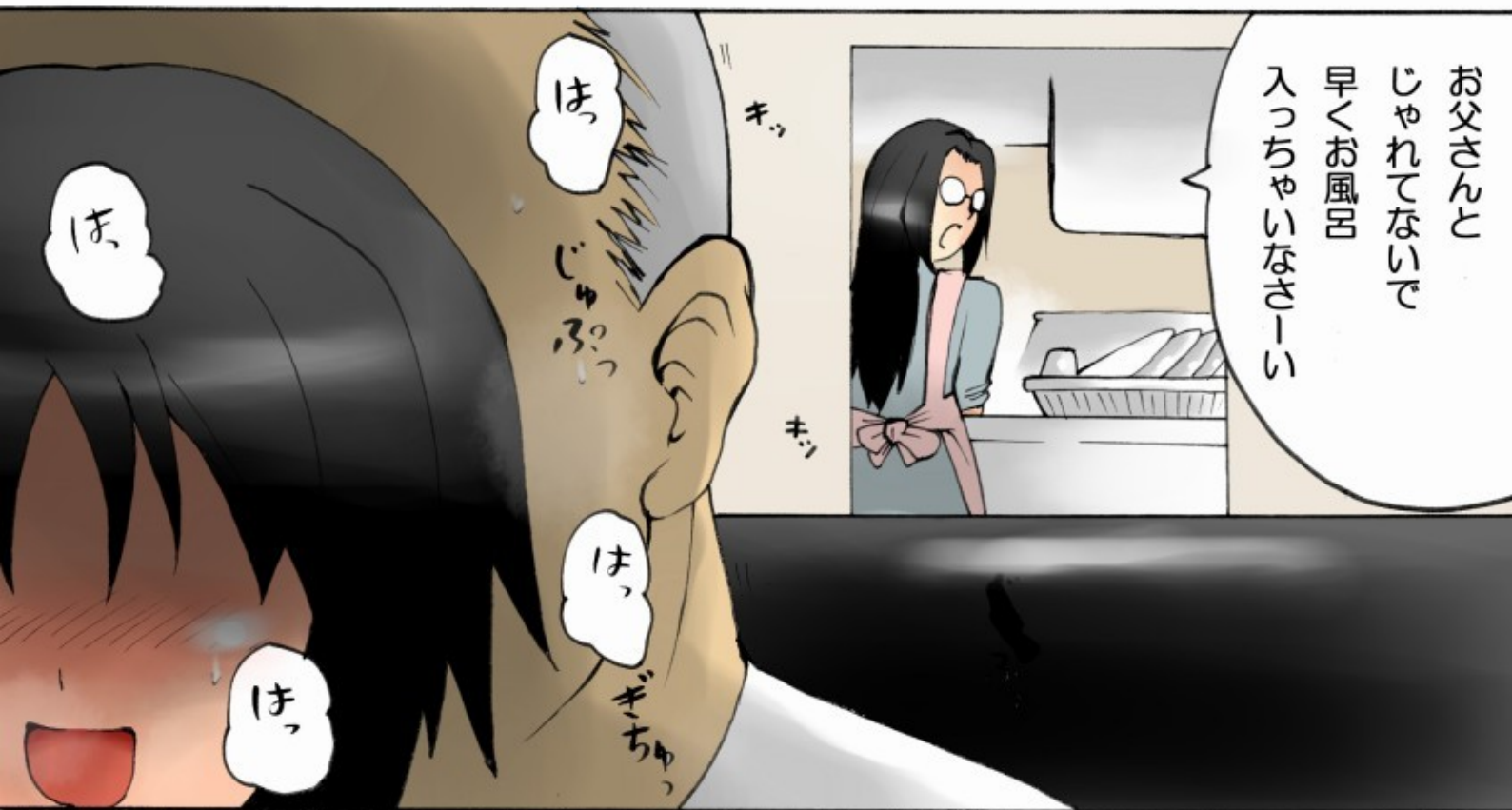
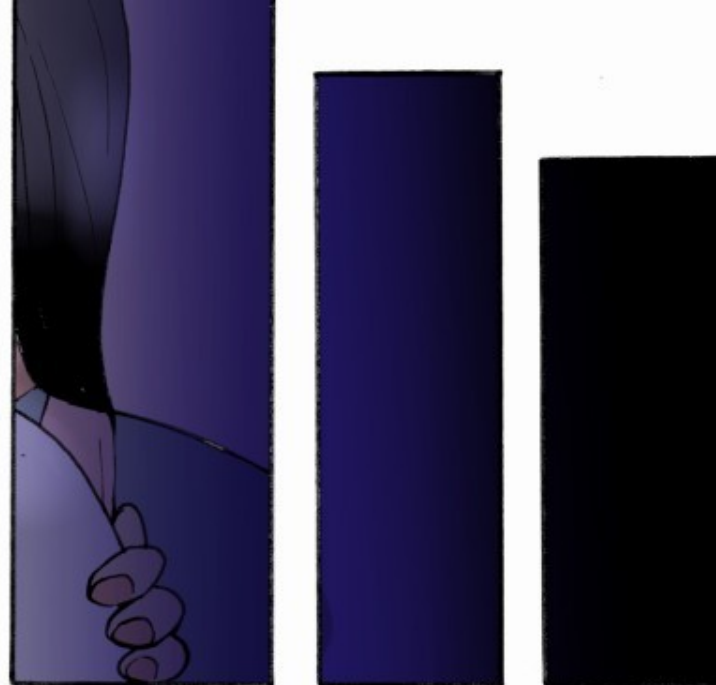
お父さん ♡







夏実ー!!



お父さんと
じゃれてないで
早くお風呂
入っちゃいなさい

ド

うんっ…っ

プ

